



「みんなでハピボラ！」

令和6年度「高校生ボランティアリーダー養成事業」

各校の活動報告書

1	金沢錦丘高等学校	・・・・・・・・・・ P 1
2	金沢二水高等学校	・・・・・・・・・・ P 3
3	志賀高等学校	・・・・・・・・・・ P 5
4	穴水高等学校	・・・・・・・・・・ P 7

心の教育推進協議会

（事務局：石川県教育委員会事務局生涯学習課）



令和6年度「高校生ボランティアリーダー養成事業」活動報告書

学 校 名	石川県立金沢錦丘高等学校	担当の先生の氏名	田原 恭比古
高校生リーダー氏名	首藤 亜衣佳、金坂 汰来、新出 亜美瑠、中島 歩音		
活 動 名	能登とともに歩む「能登半島地震における募金活動」		

1. 養成講座で学んだことで、今年度の活動に生かしたこと

・誰かに言われた通りのボランティア活動を行うのではなく、自分たちでできることを工夫し、活動を行っていくことが大切だと感じた。そのため、自分たちだけで募金を行うのではなく、ほかの組織や活動と連携し、能登復興への手助けとなる活動に生かそうと考えた。

2. ボランティアリーダーとしての活動内容

活動時期	活 動 の 概 要
7 月	・実施計画の作成 ・担当の先生と打ち合わせ ・販売用うちわのレイアウト作成、発注 ・書道部へのコラボ依頼（PR 用）
8 月	・募金箱、啓発ポスターの作成

3. 実施したボランティア活動の内容

活動時期	活 動 の 概 要	活動場所	対象 (延べ人数)
6 月 12 日	第 1 回 企画運営会議 ・生徒会執行部で、能登半島地震への支援を考える。	学校 (4 名)	本校生徒 (約 1,200 名)
6 月 19 日	第 2 回 企画運営会議 ・募金活動の計画を立てる。		
7 月 10 日	第 3 回 企画運営会議 ・募金活動の周知方法を考える。 ・書道部へ企画のコラボを依頼する。		
8 月 19 日	啓発ポスター、募金箱の作成（生徒会執行部）		
8 月 29 日	募金のアナウンスおよび活動		
8 月 30 日	（生徒会執行部、書道部、文化委員）		保護者 (約 600 名)

4. 成果と課題（自主的な活動の展開、活動の輪の広がり方、交渉力等の面から）

成果

- ・書道部のパフォーマンスを通して、全校生徒に能登半島地震への支援を呼びかけることができた。
- ・文化祭でうちわの売上も募金にすることができた。

課題

- ・募金以外の活動で、高校生ができることを考える必要があると感じた。
- ・学校だけでなく、地域などのより大きな広がりを意識して活動する方法を考えたい。

〈活動写真〉



令和6年度「高校生ボランティアリーダー養成事業」活動報告書

学 校 名	石川県立二水高等学校	担当の先生の氏名	小島 佳織
高校生リーダー氏名	李恩喜		
活 動 名	ボランティアで心を一つに!		

1. 養成講座で学んだことで、今年度の活動に生かしたこと

・ボランティアリーダーとして「他人事」ではなく「自分事」として行動し、学年関係なく、たくさんの人と協力してボランティアを行うことができたこと。

2. ボランティアリーダーとしての活動内容

活動時期	活 動 の 概 要
4月10日 4月30日	1円玉募金活動~ JRC 新聞<PTSD>や<熱中症>等の内容で作成、校内に掲示

3. 実施したボランティア活動の内容

活動時期	活 動 の 概 要	活動場所	対象 (延べ人数)
5月31日	<JRC 大会>	いしかわ 子ども交 流センタ ー	9人
6月1日	<百万石まつり救護ボランティア> 百万石まつりにおける迷子探し	百万石ま つりコー ス周辺	9人
7月3日	<置き傘プロジェクト> 「二水高校で不要となった傘を仕分け、観光客に向けて 置き傘となるように金沢市観光政策課へ協力し、寄付	本校	10人
7月10日	<救命講習会> AED の操作や救命法の流れ、実技を実施	本校	4人
9月7日	<JRC 競技会> 能登半島地震での日赤の活動を知る、救急法の練習	赤十字血 液センタ ー	10人

4. 成果と課題（自主的な活動の展開、活動の輪の広がり方、交渉力等の面から）

団体での行動においても学年関係なく話し合い、ボランティアをすることができた。また、百万石まつりの迷子探しボランティアでは迷子の子供を探している時に、互いに連絡を取り合い迅速に対応して実施できた。

課題としては、団体ではなく個人で行うボランティアにおいても自ら行動することが大切だとわかったことだ。

〈活動写真〉



令和6年度「高校生ボランティアリーダー養成事業」活動報告書

学 校 名	石川県立志賀高等学校	担当の先生の氏名	谷山 茉里子、木村 亮
高校生リーダー氏名	松永 楓空		
活 動 名	地域への貢献活動		

1. 養成講座で学んだことで、今年度の活動に生かしたこと

前回の養成講座を受講し、「つながり」を大切にしたいと思ったため、一人で活動するのではなく、みんなで助け合いながら活動を行うように心がけた。また、今回の震災を受けて、支援の輪を広げることの大切さも感じ、自分たちができることで、地域に貢献できる活動を取り組もうと話し合った。

2. ボランティアリーダーとしての活動内容

活動時期	活 動 の 概 要
5月20日	・ボランティア部内ミーティング・活動目標と内容の設定 (防災ボランティアとして、自分たちができること)
6月10日	・ボランティア部内ミーティング・活動目標と内容の設定 (防災ボランティアとして、自分たちができること)
6月17日	・ボランティア部内ミーティング(ハピボラの振り返り、今後の活動計画) ・部活動顧問と一緒に、福祉科の先生に相談し、助言を得る (地域に対し、自分たちができる活動について)
6月24日	・志っ祭りサポート隊(一人暮らし高齢者宅の支援)の部員への説明
7月 1日	・部活動顧問と一緒に、社会福祉協議会の担当の方と打ち合わせ
7月11日	・志っ祭りサポート隊の研修を受ける(部員・顧問対象)
8月22日	・志っ祭りサポート隊の日程調整(翌月の活動日)
9月 4日	・志っ祭りサポート隊の日程調整(翌月の活動日)
9月17日	・10月5日のボランティア活動の呼びかけ(部内)
10月23日	・志っ祭りサポート隊の日程調整(翌月の活動日)
10月25日	・部活動顧問と一緒に、福祉・介護施設担当者と交流活動の打ち合わせ (12月18日実施で計画)
11月 6日	・12月1日のボランティア活動の募集について、福祉科の先生より案内を受け、部内で呼びかけ
11月 7日	・志っ祭りサポート隊の日程調整(翌月の活動日)
11月18日	・生徒課取りまとめの、12月の赤い羽根共同募金の協力要請を受け、部内に伝える

3. 実施したボランティア活動の内容

活動時期	活 動 の 概 要	活動場所	対象 (延べ人数)
8月 2日	・社会福祉協議会の担当者同席のもと、 志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 5名
8月22日	・志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 4名
9月 3日	・志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 3名

9月17日	・ 志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 5 名
10月 5日	・ イベント「能登と生きる、鼓動を感じる志賀町」 志賀町増穂浦海岸の「世界一長いベンチ」で、 「リレー形式で和太鼓をたたいた最多人数」の世界 ギネス記録に挑戦するイベントのボランティア	増穂浦海 岸	部員 2 名
10月 9日	・ 志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 3 名
10月20日	・ 志賀フェス フードドライブ、赤い羽根共同募金活動	学校内	部員 2 名
10月21日	・ 志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 5 名
11月 6日	・ 志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 3 名
11月18日	・ 社会福祉協議会の担当者同席のもと、 志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 4 名
12月 1日	・ 地域の高齢者との交流活動のボランティア (昔遊びなど)	富来活性 化センタ ー	部員 2 名
12月 2日	・ 志っ祭りサポート隊の活動	利用者宅	部員 3 名

4. 成果と課題（自主的な活動の展開、活動の輪の広がり方、交渉力等の面から）

- ・福祉科の先生に活動できないことがないかを伺い、地域の社会福祉協議会とつながることができたことで、活動の範囲を広げることができた。
- ・ボランティア部員で話し合って決めた活動以外の、自主的なボランティア活動については、部員に伝える際、リーダーとして、細かい活動内容などを十分に理解し、把握してから伝えることが大切だと感じた。

〈活動写真〉



令和6年度「高校生ボランティアリーダー養成事業」活動報告書

学 校 名	石川県立穴水高等学校	担当の先生の氏名	室谷 貴大
高校生リーダー氏名	古道慶太 高こゆき 藤本菜摘 橋本智徳 川上敦史 天野慎之輔		
活 動 名	穴水町復興ボランティア		

1. 養成講座で学んだことで、今年度の活動に生かしたこと

- ・復興に向けて高校生目線で様々なことにチャレンジしたい。
- ・まずは、しっかりと計画を立てて実行に移していきたい。

2. ボランティアリーダーとしての活動内容

活動時期	活 動 の 概 要
4月～	①まごころ表札ボランティア（仮設住宅入居者分）に全校生徒で参加 ※参加できる日程を最低1日以上選ぶ ②表札設置ボランティア ※希望者を募り、作成した表札の取り付け作業を行う。

3. 実施したボランティア活動の内容

活動時期	活 動 の 概 要	活動場所	対象 (延べ人数)
4月14日	第一回まごころ表札ボランティア (午後のみ参加)	穴水町おひさまクラブ	20名
5月12日	第二回まごころ表札ボランティア (午前・午後に分けて参加)	穴水町おひさまクラブ	午前：15名 午後：3名
5月25日	第三回まごころ表札ボランティア (午前・午後に分けて参加)	由比ヶ丘仮設住宅 (陸上競技場)	午前：12名 午後：13名
5月26日	第四回まごころ表札ボランティア (午前・午後に分けて参加)	兜公民館	午前：20名 午後：7名
6月9日	第五回まごころ表札ボランティア (午前のみ参加)	港町(大町)団地D 集会場	7名
6月10日 以降	表札設置ボランティア (放課後の時間帯計3回)	由比ヶ丘仮設住宅 (陸上競技場)	6名

4. 成果と課題（自主的な活動の展開、活動の輪の広がり方、交渉力等の面から）

【成果】

今年度は、全校生徒が参加できるように日程調整を行い、全校生徒へ参加を促した。ほとんどの生徒が1回以上参加することが出来たのは良かった。また、県外から支援に来てくれているボランティアスタッフの方々との繋がりもでき、どのような活動をしているのか等を聞くことが出来た。

【課題】

自分たちで考案した活動ではないため、次は自分たちで企画して地域に貢献できる活動をしていきたいと思った。他校や県外の高校生がどのような活動をしているかより知る必要があると感じた。

〈活動写真〉

